6/23 牧田浪江さん、めでたく 100 歳に

いつまでもお元気で

素敵な笑顔の浪江さん

牧田浪江さんが、めでたく 100 歳の誕生日を迎え、入所している老人保健施設ほほえみ三戸で、お祝いの会が開かれました。浪江さんには、町から顕彰状と記念品として三戸産百年紅玉の果汁で作ったジュース２本が贈呈されました。

大正９年６月 23 日に岩手県一戸町で生まれた浪江さんは、小学５年生の時に三戸町にやってきました。学校の成績は優秀で、バレーボールの選手だったそうです。結婚して３人の子宝にも恵まれています。浪江さんは「子どもの頃、お米の粉をお湯で溶いて飲んでいた。好き嫌いはなく、何でも食べますよ」と長寿の秘訣を教えてくれました。

大きなジュノハート、いただきまーす♥

7/6 「ジュノハート」給食で提供

大粒のジュノハートに笑顔

三戸町では、地産地消の推進と児童生徒の農業への関心を深めることを目的に、学校給食への地域産農産物の活用を推進しています。町内農業者から買い入れたサクランボ「ジュノハート」１粒と「サミット」２粒を３粒１セットとして町内小中学校の学校給食で提供し、児童生徒と教職員 679 人に配られました。このうち斗川小学校（盛裕子校長）では、１～６年生の児童 36 人がランチルームに集まり、松尾和彦町長と友田博文教育長と共に大粒のジュノハートを楽しく味わいました。

澤田夢杏（ゆあん）さん（斗川小４年）は「ジュノハートはいつも食べているサクランボより大きくて、甘くてすごく美味しかった」と笑顔で大粒のジュノハートを頬張っていました。松尾町長は「ジュノハートは、ことし全国デビューする青森県産の品種です。地域産品の美味しさを知ることで、将来、地元に残って自分たちで生産してみたいと思えるきっかけになればと思います」と話しました。

7/18 さんのへ農業小学校～第５回授業

育てたジャガイモでカレー作り

ジャガイモ掘りをする子どもたち

子どもたちに農業をとおして食の大切さを伝えるさんのへ農業小学校の第５回目の授業が行われ、17 人が参加し、春に植えたジャガイモの収穫について学びました。収穫作業後は、中央公民館の調理室で自分たちが収穫したジャガイモを使ってカレーを作り、みんなで美味しくいただきました。

松原礼奈さん（三戸小６年）は「ことしはジャガイモがたくさんとれて嬉しかった。その後作ったカレーは、ジャガイモがホクホクしていてとても美味しかったです」と話しました。

右から工藤稔委員、根立委員、工藤茂夫委員、佐野委員

6/10 人権擁護委員が表彰

人権に対する想いを新たに

人権に対する活動の功績が認められ、三戸町の人権擁護委員4人が表彰を受けました。人権擁護委員は、人権擁護委員法に基づいて、人権相談を受けたり、人権の考えを広めたりする活動をしています。令和2年4月1日付けで、工藤稔委員・根立朋子委員は仙台法務局長表彰、工藤茂夫委員・佐野奈美子委員は青森地方法務局長表彰を受けました。

6/23 杉沢小学校が町探検学習

町のことたくさん学んだよ！

三戸町立杉沢小学校（田中康文校長）の2・3年生の子どもたちは、三戸町の特産物や自然を見つけることや、町で働く人たちとふれ合うことを目的として、町内を巡る探検学習をしました。子どもたちは「11ぴきのねこ」の石像や町内の店舗・施設などを巡り、道の駅さんのへでは買い物体験をしました。

欲しいものたくさん買ったよ！

老久保綺槻（きつき）さん（3年生）は「たくさん歩いて大変だったけれど、お店の人から話を聞いてたくさんのことが分かりました。11ぴきのねこの石像も見られて楽しかった」と笑顔で話していました。

サクランボを収穫するイラストを使用

6/25 「11ぴきのねこさくらんぼ箱」が完成

三戸産の美味しいサクランボはいかが

三戸町の農産物を原料にした加工品ブランド「三戸精品」の規格・販売を手掛ける地域商社である㈱ＳＡＮＮＯＷＡ（吉田広史社長）は、町出身の漫画家故・馬場のぼるさんの人気絵本「11ぴきのねこ」のイラストがデザインされたサクランボ用の箱を製作しました。吉田社長らは、役場を訪れ、松尾町長に完成を報告しました。吉田社長は「11ぴきのねこのファンや地域の人など、多くの人に喜んでもらいたい」、松尾町長は「三戸町産のサクランボのおいしさを多くの人に感じてもらいたい」と期待を寄せました。

たくさんの支援をありがとうございます

6/30 社交ダンスがマスクを寄贈

三戸町社交ダンス愛好会（中平茂会長）は、新型コロナウイルス感染症対策として町にマスク500枚を寄贈しました。中平会長と妻の礼子副会長は役場を訪れ、約20人の会員が積み立てた活動費で購入したマスクと会員手作りの「11ぴきのねこ」のネクタイを松尾和彦町長に手渡しました。中平会長は「少しでも町民の役に立てれば」と話し、感染予防に一役かいました。

左から中平茂会長、松尾町長、中平礼子副会長

左から、和嶋経営企画室長、川村社長、松尾町長、小宮山三戸店長

7/1 災害時等における連携協定を締結

安全・安心なまちづくりのために

株式会社サンデー（川村暢朗（のぶあき）代表取締役社長）と三戸町は、「災害時等における支援協力」と「町民の命と安全を守るための情報提供」の２つの協定を結びました。

災害時においては、風水害の被害や新型コロナウイルス感染症が発生した際に、町から要請のあった物資を優先的に供給いただくほか、平常時においては、同社が行う商品宅配・住宅補修サービス「SUN 急便」の業務中に、住民の命と安全に関わる情報を町へ提供いただくなど、住民が安全に暮らせるよう支援をいただく協定内容となっています。

川村社長は「必要なときに、必要な物を提供できるよう態勢を整えます。町民の皆さんが住み慣れた町でより暮らしやすくなるよう見守っていきたい」と、松尾町長は「町としても地域の安全を守るために努めていきます」と話しました。

7/2 社会を明るくする運動

誰もが再出発できる社会を

メッセージを代読する越後副会長（左）

第 70 回社会を明るくする運動の広報啓発活動が行われました。この運動は、犯罪や非行防止と、罪を犯した人たちの更正について理解を深め、犯罪のない地域社会を築こうとする全国的な運動です。

三戸町では、八戸地区保護司会三戸分会（山口裕貢会長）の越後秀副会長が、内閣総理大臣と青森県知事のメッセージを代読し、松尾和彦町長に手渡しました。

越後副会長は「誰もが再出発でき、暮らしやすい地域になってくれれば」と話し、松尾町長は「コミュニケーションが大事な世の中です。皆さんの活動に感謝している」とお礼の言葉を述べました。

百沢団長（左）と松尾町長（右）

7/7 百沢さんが青森県消防協会副会長に就任

県と町の消防活動に尽力します

三戸町消防団の百沢俊昭団長は、公益財団法人青森県消防協会の副会長に就任したことを町長に報告するため、役場を訪れました。

青森県消防協会は、消防思想の普及と消防活動強化の支援、また消防団員の福祉増進を図ることを目的に設立された団体です。百沢団長は「青森県消防協会副会長として、また三戸町消防団長としての責務に誇りを持ち、これからも消防活動に尽くしていきます」と話しました。

7/8 三戸仏教慈眼会が支援金を寄附

三戸仏教慈眼会の皆さんと松尾町長（中央）

三戸仏教慈眼会（髙杉法昭会長）は、少子高齢化が進む中、子ども子育て世代の支援といった児童福祉に役立ててほしいという目的で、50 万円を寄附しました。

髙杉会長は「明るい地域づくりのため、また、地域の未来を担う子どもたちのために役立てていただきたい」と話しました。松尾町長は「子育て世代の人たちが安心して生活できるよう有効に活用していきたい」と感謝の言葉を述べました。

協力してジュノハートを販売

7/11 ジュノハート PR イベントを開催

地域の魅力を発信

地域商社 SANNOWA（吉田広史社長）は、道の駅さんのへでサクランボの新品種「ジュノハート」の PR イベントを行いました。このイベントには三戸高校ビジネスマネジメントコースの生徒と松尾町長も協力し、交配種の「サミット」「紅秀峰」と「ジュノハート」が 5 粒ずつ入った「ファミリーセット」を 100 箱限定で販売しました。生徒たちは、訪れる人に対して試食をすすめたり、声をかけたりすることで、熱心にサクランボの魅力を伝えていました。販売に協力した三戸高校ビジネスマネジメントコースの松原愛さんは「ジュノハートを通じて、新たな地域の魅力を伝えられたらと思います」と意欲を見せました。

7/12 六日町町内会で資源回収

ごみの減量化に一役

資源回収に取り組む六日町町内会の皆さん

六日町町内会（栗谷川俊三会長）は、毎年三戸小・中学校で行う資源回収の中止を受け、町内会での資源回収を実施しました。15 人以上が集まり、各家庭の前に置かれた古雑誌やビールびんなどを回収し、ごみの減量化に一役かいました。栗谷川会長は「さまざまな行事が中止となり、町内会での活動が減ってきている。今後も状況をみながら、定期的に実施したい」と町内会の活動に意欲を示しました。

たくさんのご支援
ありがとうございます

7/14 第一生命がマスクなどを寄贈

第一生命保険株式会社青森支社八戸エリア（成冨公晴統括部長）は、三戸町教育委員会に子ども用マスク 320 枚などを寄贈しました。

成冨総括部長は「大人用の大きいマスクを付けている子どもたちを見て、子どもたちにストレスなく予防対策をしてほしいと思い、今回の寄贈を決めました。町内の子どもたちのために役立てていただきたいと思います」と話し、友田博文教育長に子ども用マスクなどを寄贈しました。友田教育長は「子どもたちの感染予防のために活用させていただきます」と感謝の言葉を述べました。